

【発表テーマ】 日本語文法授業における能動的学習の促進に向けて

：学習者参加型アプローチの試み

【氏名】 李宗禾（リソウカ）

【所属】 東呉大学外国語学院日本語学科

【発表要旨】

外国語学習において、文法の習得が言語能力の獲得に直結するとの認識から、従来の文法授業では構造主義言語学に基づくオーディオ・リンガル法が主流の教授法として用いられてきた。この手法の利点は、教師主導の講義形式により、短時間で多数の文型や文法項目を学習者に導入できることである。しかしながら、知識伝達型の授業は、長期的には学習者の学習意欲や学習成果に否定的な影響を及ぼす可能性が指摘されている。近年、批判的思考力や問題解決能力の育成が教育目標として重視されるなか、受動的な学習スタイルから脱却し、学習者主体の授業デザインが求められている。

本研究は、文法授業における知識の伝達と学習者の自主的な授業参加との調和を図る教育的アプローチを提案するものである。具体的には、日本語の助動詞を指導するにあたって、自己決定理論に基づき、学習者の「自律性」「有能感」「関係性」の三要素を意識した授業デザインを行った。その実践の結果、三要素のうち「関係性」に関しては顕著な効果が確認されなかった一方で、学習動機の質的変容、多様な学習背景を持つ学習者間における学習姿勢の違い、ならびに学習効果の向上が確認された。